

水の 話

FujiClean NEWS

2022
Hello New Year!!

no.194

[特集]

和歌に詠まれた

いにしえ

古から続く景勝地

歌枕になった水風景・和歌の浦の魅力

特集

和歌に詠まれた いにしえ 古から続く景勝地

歌枕になった水風景・和歌の浦の魅力

和歌の浦は、その美しい景観から、天橋立に並ぶ景勝地として知られる地です。古くは奈良時代から、多くの人を惹きつけてきた軌跡は、多くの和歌や絵画、文学などさまざまな文化・芸術作品に残されています。今なお注目を集める、1300年の歴史が織りなす景観の魅力をたどります。

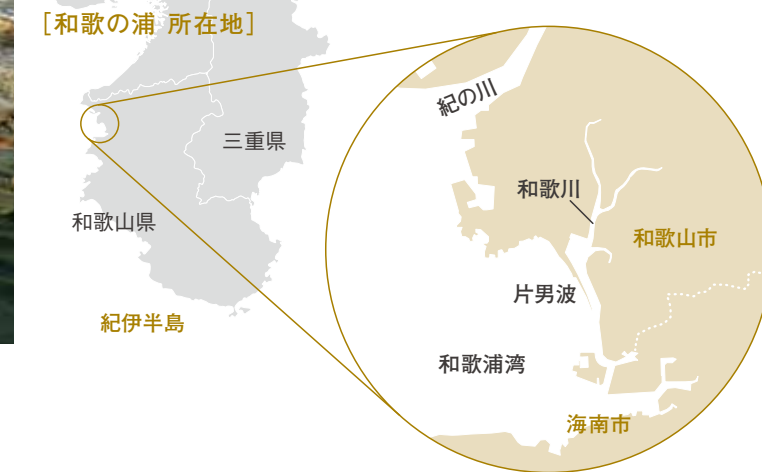
和歌祭の御成道として徳川治宝の命で建造された不老橋



和歌の神・衣通姫尊を祀る玉津島神社



玉津島神社にある山部赤人の万葉歌碑



[和歌の浦 所在地]

多くの宮廷人たちが憧れた、和歌の聖地。

和歌の浦を有名にした聖武天皇の行幸

日本最大の半島である紀伊半島の西半分を有する和歌山県の北部に、風光明媚な地として知られる「和歌の浦」があります。和歌川の河口に広がる干潟を中心に、熊野古道の藤白坂から紀伊水道に面する雑賀崎までの和歌浦湾を取り巻く一帯で、2010(平成22)年には国の名勝に選ばれ、2017(平成29)年に文化庁の「日本遺産」に登録されています。潮が引くと干潟が現れ、刻々と姿を変化させる叙情的な風景は、万葉の時代より多くの和歌に詠われるなど、さまざまな文化・芸術を生み出しています。

「和歌の浦」の名が歴史の舞台上に登場するのは、1,300年前の奈良時代。724(神亀元)年、聖武天皇が即位の年に紀伊国に行幸し、玉津島に滞在しています。聖武天皇はその

素晴らしい景観に感動し、古くは「弱浜」と呼ばれていた浜を「明光浦」と改名、守戸(番人)を置いて景観を守るために詔勅を発しました。また行幸にお供していた山部赤人が詠んだ「若の浦に潮満ち来れば潟を無み 葦辺をさして鶴鳴き渡る(和歌の浦に潮が満ちてくると、干潟がなくなるので、葦の生えている岸辺に鶴が鳴きながら渡っていく)」は、躍動感あふれる情景と感動を見事に描き、和歌の浦を一役有名にしました。万葉集には、14首の和歌の浦の詠が残されており、この地を訪れた万葉人たちの感動が伝えられています。

「若の浦」から「和歌の浦」となった和歌の聖地

聖武天皇の行幸や山部赤人の和歌によって有名となった和歌の浦は、紀貫之による『古今和歌集』で赤人の歌が

改めて取り上げられ高く評価されたことで、和歌の浦の歌枕化を決定づけました。さらに和歌の名人・衣通姫が、和歌の神様として玉津島に祀られると、和歌の聖地として崇められました。それまで「若の浦」と表記されたいものが転じて、「和歌の浦」となったのもこの頃です。以来、歌枕としての和歌の浦は、都の貴族や関白・大臣、多くの文人墨客の憧れの地になります。四方を山に囲まれた平城京に住む都人たちにとって海の見える風景への憧れは大きく、聖武天皇の息女である称徳天皇や、平安遷都後の桓武天皇も和歌の浦に行幸(いわゆる玉津島行幸)しています。

平安時代には、和歌浦天満宮も創建され、熊野参詣や西国巡礼の道すがら多くの人を訪れるようになり、物語や紀行などの文芸作品をはじめ、名所絵として屏風や障子に描か

れていきました。江戸の大名庭園「六義園」のような和歌の浦を模した庭園も登場し、京や江戸に広がったことで、さらに多くの文化人が和歌の浦に憧れを抱いていきました。

和歌の浦を歌に詠んだ歌人

山部赤人 聖武天皇の紀伊行幸に随行し、和歌の浦を讃える歌を詠んだ和歌の浦を有名にした歌人。
「若の浦に潮満ち来れば潟を無み 葦辺をさして鶴鳴き渡る」

柿本人麻呂 晩年に訪れた和歌の浦で、亡き妻の悲しい思い出を歌に詠んだ、万葉を代表する歌人。
「玉津島磯の浦廻の真砂にもにほいて行かぬ妹も触れけむ」

藤原朝臣 藤原不比等の子・房前が鷹呂ではないかといわれており、万葉集に7首の歌を残している。
「玉津島見れども飽かずいかにして 包み持ち行かむ見ぬ人のため」

歌人・文人・絵師たちに描かれ、文化芸術を育んだ歴史。

紀州徳川家による整備と開放

中世末、1585(天正13)年に紀州を平定した豊臣秀吉も、玉津島神社へ参拝しています。岡上に建てた城を和歌の浦に因んで「和歌山城」とし、その城下が和歌山と呼ばれるようになったことが、現在の県名に引き継がれています。

江戸時代に入ると、和歌山は尾張・水戸とともに「御三家」と呼ばれる紀州徳川家の城下町として賑わうようになります。豊臣家滅亡後の1619(元和5)年、徳川家康の十男・頼宣が初代紀州藩主となると、和歌の浦の景観の保全整備に努め、その美しさを守り続けました。そして和歌の浦の北西にそびえる権現山に父・家康を祀る東照宮、干潟に浮かぶ妹背山に母・お万の方をしのぶ多宝塔を建立し、和歌浦天満宮と並んで和歌の浦を代表する光景になっています。

さらに頼宣は、景観を保護する一方で民衆にも開放していきます。干潟の景色を鑑賞できる場所として、妹背山に三断橋をかけて観海閣を設けます。紀州東照宮の例大祭として頼宣がはじめた「和歌祭」は、渡御行列が練り歩くなど民衆を楽しませる行事として受け継がれています。また、西国

三十三巡礼の第二番札所・紀三井寺から渡し船を出して多くの西国巡礼の旅人を和歌の浦へと誘いました。和歌の浦は、民衆遊楽の地としても進化を遂げたのです。

多くの芸術に詠い、描かれた絶景

頼宣に続いて歴代の紀州藩主たちも、和歌の浦を守り続けていきます。10代藩主治宝は、高津子山の山並みを借景に和歌の浦の景色が取り入れられた大名庭園「養翠園」を造園。養翠園は、江戸の浜離宮と同じく珍しい潮入りの大名庭園で、園内に茶室を設けるとともに、愛する和歌の浦の名所をかたどった菓子や茶器をつくらせています。また1851(嘉永4)年に、和歌祭の際に徳川家や紀州東照宮の人々が通る御成道として完成させた「不老橋」は、当時の近畿地方周辺では非常に珍しいアーチ型の石橋で、勾欄部分の雲を模様化した彫刻は装飾的にも優れています。

その後も、江戸時代には絵師・桑山玉洲や俳聖・松尾芭蕉、明治には文豪・夏目漱石など、多くの文化人が和歌の浦を作品に描き、語り伝えられています。



1. 紀州徳川家初代藩主・頼宣が父・家康の霊を祀るために建立した紀州東照宮。絢爛豪華な社殿周囲には、左甚五郎作の彫刻や狩野探幽の壁画があります。国指定重要文化財
2. 学問の神様・菅原道真を祀る和歌浦天満宮 3. 西国第2番の札所である紀三井寺。231段の石段を登ると和歌浦湾が一望できます 4. 徳川治宝により造営された養翠園は、全国的に珍しい海水を取り入れた池泉回遊式庭園 5. 高津子山より眺める片男波公園と和歌浦湾 6. 和歌山城は、豊臣秀吉が弟の秀長に築城させ、のちに紀州徳川家の居城となりました。天守閣からは和歌山市街を見渡すことができます 7. 和歌浦観光遊歩道から見える蓬莱岩は、長い年月をかけて削られた岩山で、パワースポットとして親しまれています



明治維新後の保護体制

紀州徳川家による整備によってつくられた和歌の浦は、現在私たちが目にする景観の骨組みとなりました。しかし明治維新で紀州藩が崩壊すると保護体制も失ってしまいます。そこで和歌の浦の歴史的環境の保護に立ち上がったのは、民衆でした。1866(慶應2)年に相次ぐ台風で観海閣が倒壊すると、財政が圧迫していた紀州藩に代わり、和歌山の村民たちが修繕および管理・保全に努めました。1885(明治18)年には、和歌村が和歌山県令宛に和歌の浦を県立公園指定と整備・保護を願う「県立公園設置請願書」を提出し、これが1895(明治28)年の和歌公園設置につながっています。和歌公園の設置は、天橋立、松嶋、嵐山よりも早く、かつての玉津島山、片男波の砂嘴、干潟という和歌の浦の歴史的景観の骨格となる場所に、保護と規制措置がとられ、和歌の浦を名勝として保護するための制度的基礎になっています。

時代の移り変わりりと和歌の浦の観光振興

明治30年代に大阪～和歌山間に鉄道が開通し大都市と結ぶ交通機関が整備されると、大阪方面からはもちろん、遠隔地からの関心も高まりました。多くの旅館や観光客向けの

施設が造られ、海水浴も定着しました。その後、事業家・森田庄兵衛が、新和歌浦開発構想により和歌浦から田野に通じる道路の整備や、2つのトンネルを貫通させるなどして観光開発に尽力しました。1950年代になって雑賀崎周遊ルートができると、さらに観光地化は加速していきました。

その後の和歌の浦の観光振興は、時代変化とともに盛衰を繰り返していきます。1980年代には、和歌山市で再開発の話が浮上りますが、地域住民からの強い反対もあり実現にいたりませんでした。そうして守られた和歌の浦の景観の歴史的、文化的価値が認められ、2008(平成20)年6月に県指定文化財(名勝および史跡)、2010(平成22)年に国の名勝に指定されました。そしてより一般的な知名度を広めたいという熱い想いから日本遺産登録へとつながっています。

歴史的な風致を残しつつも、2006(平成18)年には環境省が定める快水浴場百選に片男波海水浴場が選定されるなど、レジャー施設や海水浴場も人気を集めています。近年では、異国感あふれる雑賀崎の街並みや、和歌浦湾から田野浦湾までの和歌浦観光遊歩道から眺める奇岩・蓬莱岩や夢の鐘など、さまざまな魅力を創出し、近年は年間300万人の観光客が和歌の浦を訪れています。

時代を越えて愛され、守られる、水辺遺産。

干潟のアサリ資源の減少と回復

聖武天皇が「この景観を末永く守るように」と命じたように、和歌の浦は1,300年以上も前から多くの人に愛され、環境保全に尽くされてきた場所です。それだけに、この地域の人々には、和歌の浦の景観を守り、育て、次の時代に繋ごうという意識が刻まれており、さまざまな保全に関する活動が行われています。

和歌川河口に広がる干潟は、近畿最大の47ヘクタールを有し、「日本の重要湿地500」にも選ばれています。カニや貝などの生物が約300種見られるなど多様性に富み、かつては「潮干狩り場」として貴重な観光資源の一つになっていました。しかし、20数年前までは豊富に採れていたアサリが激減し、2008(平成20)年を最後に潮干狩りが中止されました。この状況を受け、翌年からアサリの再生活動が始まり、現在は2015(平成27)年に和歌浦漁業協同組合が設立した「和歌浦活性化活動組織」と和歌山市が連携してアサリ資源の回復のさまざまな取り組みをスタートさせています。片男波干潟をアサリの生育しやすい環境に再生するために、アサリの外敵生物の駆除と調査を本格的に開始し、アサリ減少の原因の一つである食害を防ぐための被覆網の設置や、アサリを食べるツメタガイの除去を行いました。さらに効率的にアサリの稚貝を捕集するため、稚貝を砂ごと網袋に入れて干潟上で夏季まで保護・育成しています。

水辺遺産を未来の子どもたちに

また末永い環境保全を考え、次代を担う子どもたちに干潟や海に対する興味・関心を喚起するための環境教育にも積極的に取り組んでいます。「特定非営利活動法人Blue Ocean for Children」と連携して2015(平成27)年よりスタートさせた「あさり姫プロジェクト」は、アサリを食害から守るために、アサリを竹筒に入れて育てるプロジェクトです。これは和歌浦小学校が総合学習の一環として行っており、干潟での生き物観察から始まり、干潟についての授業や水質実験、竹筒の加工も子どもたち自身が行います。この活動を通じて、子どもはもちろん保護者や地域の人々の干潟への興味や、海をきれいにすることへの意識を高めています。

さまざまな活動によって、アサリの資源量は徐々に回復の兆しを見せていますが、多くが被覆網下で生育したものなど、まだまだ課題も残っています。今後も、目標である潮干狩りの復活をめざして活動を続けながら、アサリ以外にもしらすやアジアカエビ、アジなどが獲れる栄養豊富な漁場としても大切な資源を守り育てていきます。

古より受け継がれてきた和歌の浦の景勝は、古より守られてきた財産でもあります。この美しい水辺の景色と歴史に根ざした数々の建立物からは、多くの人が憧れ、守り続けてきた想いが伝わってきます。そんな壮大な歴史を感じるため、今もなお、足を運ぶ人が絶えないのかもしれません。



- [取材協力・写真提供・資料提供]
- 和歌山市観光課
 - 和歌浦漁業協同組合
 - 特定非営利活動法人Blue Ocean for Children

- [参考資料]
- 和歌の浦学術調査報告書(2010年12月 和歌山県教育委員会)
 - 和歌の浦 歴史と文学(蘭田 香融 監修/藤本 清二郎・村瀬 憲夫 共著/有限会社和泉書院 発行)
 - 日本史の中の和歌浦(寺西 貞弘 著者/株式会社塙書房 発行)
 - 歌枕の聖地 和歌の浦と玉津島(山本 啓介 著者/株式会社平凡社 発行)
 - 和歌浦物語(柏原 卓 編者/有限会社和泉書院 発行)



1-2. 片男波の西隣に位置する和歌浦湾に面した和歌浦漁港。和歌浦湾で獲れるミネラル豊富なしらすは「わかしらす」と名付けられ、ブランド化されています
3. 和歌浦湾で獲れる魚貝類や水産加工品を販売するおとっと広場 4. 夕日スポットとしても知られる雑賀崎灯台の眼前には、大島・中ノ島・双子島が広がります



400年にわたって受け継がれてきた、紀州の民衆文化「和歌祭」。

[和歌祭公式サイト] [HP http://wakamatsuri.com/](http://wakamatsuri.com/)

「和歌祭」は、別名、紀州の国祭、天下祭、権現祭と呼ばれ親しまれてきた和歌山県を代表とするお祭りです。紀州徳川家の初代藩主である徳川頼宣が、父・徳川家康を祀る紀州東照宮を建立し、その翌年の4月17日(家康の命日)に紀州東照宮の例大祭として始めました。天下泰平を祈願するだけでなく、城下町に住む武士や町人などさまざま身分の人々が参加し、藩主らと楽しみを共有する民衆のお祭りでした。規模が大きく絢爛豪華な内容に多くの人が集まり、かつては日本三大祭りの一つに数えられていたほどです。戦争による中断を挟みながらも、全国に類を見ない祭りとして、今に受け継がれています。

祭りは、侍坂とも呼ばれる紀州東照宮の108段の急な石段を、白装束の男たちが約1トンの神輿を担ぎおろす迫力満点の「神輿おろし」から始まります。その後、雑賀踊、薙刀振、太鼓など数十の集団、総勢約千人による渡御行列が、さまざまな芸能を披露しながら和歌の浦周辺を練り歩きます。現在は、毎年5月の第2週目に開催され、2021年は新型コロナウイルスの感染拡大防止の影響によって中止となりましたが、2022年には400周年を迎え、「和歌祭四百年式年大祭」として例年以上の催しが予定されています。江戸期における紀州の民衆文化を、現在に体感できる貴重な機会です。



環境省2022(令和4)年度浄化槽整備予算案を提出。 早期かつ効果的な合併浄化槽への転換促進へ。

浄化槽推進関係に前年比111.5%の96億円を要求

全国でいまだ単独浄化槽やくみ取り便槽が使用されており、その使用人口は約1,000万人といわれています。これらは水質汚濁の大きな原因となっていることから、2020(令和2)年に施行された浄化槽法改正に基づき、合併処理浄化槽への早急な転換が求められています。環境省浄化槽推進室では、2022(令和4)年度の浄化槽推進関係予算(案)として前年比111.5%の96億円を計上。予算概算要求が実現すれば、個人設置型浄化槽(浄化槽台帳システム等の整備によって、管理の適正、効率化を図ることができるもの)にも、長寿命化計画に基づき、助成がされることとなります。

浄化槽システムの脱炭素化を支援

あわせて、二酸化炭素排出抑制対策として、浄化槽分野における省エネ対策の促進や再生可能エネルギーの導入支援を目的とした「浄化槽システムの脱炭素化推進事業」も要求しています。これは2021(令和3)年度まで5年間にわたって実施されてきた「省エネ型浄化槽システム導入推進事業」のリニューアル事業で、2030年度CO₂排出量46%削減目標の達成に向けた施策となります。補助はエネルギー効率の低い既設の中・大型浄化槽を対象に、高効率プロワ等の最新型の高効率機器への改修や先進的省エネ型浄化槽への交換、再生可能エネルギーを活用した浄化槽システム(太陽光発電設備、蓄電池等)の導入が設けられています。

国庫助成の内容

◆ 循環型社会形成推進交付金(浄化槽分) 2022年度新規拡充メニュー

- くみ取り便槽から合併処理浄化槽への転換に伴う便槽撤去および宅内配管工事に対する支援
- 公共浄化槽制度や法定協議会等を通じた効果的な転換促進および管理適正化・長寿命化の推進
- 単独転換により使用廃止する単独処理浄化槽の雨水貯留槽への再利用の推進

| | 助成対象額(4割) | |
|------------------------|-----------|---------------------------|
| ● 浄化槽設置整備事業(個人設置型) | 個人負担(6割) | 2/3(1/2) 市町村 / 1/3(1/2) 国 |
| ● 公共浄化槽等整備推進事業(市町村設置型) | 個人負担(1割) | 2/3(1/2) 市町村 / 1/3(1/2) 国 |
| 助成対象額(10割) | | |

◆ 二酸化炭素排出抑制対策事業費等補助金(浄化槽分) 2022年度新規要求

浄化槽システムの脱炭素化推進事業

- 既設の中大型合併処理浄化槽に係る高効率機器への改修
- 既設の中大型合併処理浄化槽から先進的省エネ型浄化槽への交換
- 中大型合併処理浄化槽への再エネ設備の導入

令和4年度 浄化槽推進関係概算要求の概要(令和3年8月31日環境省浄化槽推進室)より作成。予算案成立時には内容に変更が生じる可能性があります。

海外導入レポート

世界遺産ハロン湾に浮かぶTiTop島に フジクリーン浄化槽が導入されました。

FujiClean Wastewater Treatment System selected for TiTop Island in the World Heritage Site Ha Long Bay.

ベトナム北部、クアンニン省に位置するハロン湾は、ベトナム屈指の観光地です。水墨画のように幻想的な風景が特徴的で、1994(平成6)年には、ユネスコ世界遺産に登録されました。

汚水処理施設の整備について、ハロン市街地では下水道整備事業が計画されていますが、点在する島々への下水道整備は非現実的であり、その代替案として浄化槽の導入が決定し、フジクリーン浄化槽が採用されました。

今回の導入の経緯は、フジクリーンが長年にわたって受け入れをしている北九州国際技術協力会の国際研修における研修生との出会いがきっかけでした。研修生の1人がハロン湾管理局に勤めており、その方から浄化槽による整備の相談を受けたことからプロジェクトが始まりました。その後、ベトナム事業の要である野村貿易株式会社との協働により、調査や打合せ、プレゼンテーションを経て、2020(令和2)年、フジクリーン浄化槽3基が設置されました。設置の際には、埋設が困難であったため、地上部に設けたレンガ壁内に浄化槽を設置して砂埋めする、ベトナムならではの工夫を施しました。

今回のプロジェクトの成功から、次いでさらなる離島での浄化槽設置が検討されており、分散型汚水処理によるハロン湾の水質改善に注目が集まっています。

Ha Long Bay, located in Quang Ninh Province in northern Vietnam, is one of Vietnam's most popular tourist destinations. Characterized by its enchanting scenery reminiscent of ink wash paintings, it was registered as a UNESCO World Heritage Site in 1994.

For the development of sewage treatment facilities, a sewerage system has been planned for the Ha Long downtown area. However, it is unrealistic to develop a sewerage system for the islands scattered throughout the bay. It was decided to introduce wastewater treatment systems as an alternative, and the FujiClean wastewater treatment system was adopted.

This project started with our encounter with Kitakyushu International Techno-cooperative Association trainees, which FujiClean has been a host of for many years. One of the trainees works for the Ha Long Bay Management Department, and the project started when he asked us for advice on developing a wastewater treatment system. With the cooperation of Nomura Trading Co., Ltd., a key player in projects in Vietnam, we conducted surveys, meetings, and presentations, and in 2020, installed three FujiClean wastewater treatment systems. Since it was difficult to bury the systems, they were installed inside an aboveground brick wall enclosure filled with sand, a method unique to Vietnam.

Following the success of this project, the installation of wastewater treatment systems on more remote islands is being considered. Attention is now focused on improving water quality in Ha Long Bay using decentralized sewage treatment.



1. ビーチを楽しむため多くの観光客が訪れるTiTop島 2. 船を利用して搬入 3. 設置工事の様子

1. TiTop Island, visited by many tourists to enjoy the beach 2. FujiClean system delivered on a boat 3. Scene from installation work

お知らせ

型式認定番号更新のお知らせ

2021(令和3)年10月1日、CEN・CRXⅡ(5型~10型)の型式認定の定期更新(浄化槽法第16条認定の5年更新)により、型式認定番号および登録証が変更になりました(型式適合認定番号は変更ありません)。今後の弊社工場での生産はすべて新番号となりますので、確認申請の際は、更新後の型式認定番号にて申請をお願いいたします。該当の型式認定書には、型式認定番号の新旧対比が記載されています。すでに確認申請済みの際は、お手数ですがフジクリーンのWebサイトから型式認定書をダウンロードいただき、ご対応くださいますようお願い申し上げます。

更新後の申請関連書類のダウンロードはこちらからどうぞ



■ 新旧番号対比表

| 名称 | 型式認定番号 | |
|---------|---------------|---------------|
| | 更新前 | 更新後 |
| CEN-5型 | 5-16K-H-004 | 5-21K-H-004 |
| CEN-7型 | 5-16K-H-004-1 | 5-21K-H-004-1 |
| CEN-10型 | 5-16K-H-004-2 | 5-21K-H-004-2 |

■ [CRXⅡ型]

| 名称 | 型式認定番号 | |
|----------|--------------|---------------|
| | 更新前 | 更新後 |
| CRXⅡ-5型 | 5-16-H-007 | 5-21K-H-005 |
| CRXⅡ-7型 | 5-16-H-007-1 | 5-21K-H-005-1 |
| CRXⅡ-10型 | 5-16-H-007-2 | 5-21K-H-005-2 |

働き方
改革紹介
04

新型コロナウイルス感染症対策 withコロナ時代にむけて

新型コロナウイルス感染症対策に迫られた2020(令和2)年から、フジクリーンでは次のような感染症対策を実施し、現在も継続しています。

- オンライン会議の頻度増加
- テレワーク・時差出勤の導入
- コミュニケーションツールとして社内SNSの導入
- ペーパーレスFAXなど、紙文書の電子化促進



特に、出張や通勤の移動にかかる時間の削減は、ワークライフバランスにも良い影響があり、従業員から「生活スタイルに合わせた働き方が選択できるようになってきた」という声も出ています。しかしプラスの変化だけでなく、次のような課題も出てきています。

- 業務内容によってテレワークが実施できない
- 自宅などでは、仕事場としての十分なスペースが確保しにくい
- 快適な通信環境が整っていない

今後もこうした課題の対応を検討しながら、業務の特性に合った働き方の推進を目指します。

メディア

水の情報を届けるWebサイト『水と暮らす』で フジクリーンが紹介されました。

ウォーターサーバーの比較メディア「ミスコム」編集部が運営するサービスサイト『水と暮らす』では、暮らしにまつわるさまざまな水情報を発信しています。その中の「水を守る」をテーマとしたコンテンツにおいて、「浄化槽で世界の水環境を守る。フジクリーン工業が見据える未来とは?」と題したインタビュー記事が紹介されました。浄化槽業界のリーディングカンパニーとして、フジクリーンの企業理念や、浄化槽の仕組み、水を守る取り組みなどが紹介されています。

CHECK



フジクリーン紹介ページ



Web
サービス

浄化槽の設置や維持管理などの 業務をサポートするWebサイトコンテンツをご紹介します!

フジクリーンのWebサイトでは、浄化槽にかかわる人の業務をサポートする便利なコンテンツをご用意しています。簡単な操作で、欲しい情報入手でき、設計事務所、施工会社、維持管理会社の方々をバックアップします。

■ 処理対象人員算定シミュレーター

浄化槽を設置する建物の建築用途と算定単位を入力するだけで、人員算定ができるコンテンツです。算定結果はエクセル形式でダウンロードできるので、申請時の算定根拠資料としても利用でき、申請に必要な作業を軽減します。

CHECK



■ ダウンロードコンテンツ

浄化槽の申請、施工、維持管理まで、工程ごとに必要な書類が一括でダウンロードできます。さらに、メールアドレスを登録すると、ご希望の書類に関する更新情報をメールでお知らせする便利な機能も搭載しています。

CHECK



もっと
motto!
広げよう

水環境をきれいに
する取り組み

〈三重県鈴鹿市〉
鈴鹿高等学校
自然科学部



ネコギギ

全国初! 高等学校での保護増殖事業。 ネコギギを絶滅から守る高校生たち。



ネコギギの稚魚を放流する様子

地域の方々
向けにお魚
観察会を実施



2021年の鈴鹿高等学校自然科学部のメンバー

三重・愛知・岐阜の河川に生息する日本固有の淡水魚であるネコギギは、清流の象徴とも言われる国指定の天然記念物です。鈴鹿高等学校の自然科学部では、隣接する一級河川・鈴鹿川におけるネコギギの調査や保護活動を18年にわたって取り組んでいます。

活動のきっかけは2003(平成15)年。「昔語りにある鈴鹿川の姿を復活させていくための原動力」になりたいという思いで鈴鹿川の全域調査をしていた自然科学部は、ギギをネコギギだと勘違いして採集。それがきっかけとなり、翌年からネコギギの調査を始めました。夜行性であるネコギギの生息数を把握するため、毎年夏休みに4泊5日のモニタリング合宿を実施。2017(平成29)年からは亀山市の「ネコギギの生息域外保全事業」にも関わり、ネコギギの保護・増殖を目的とした飼育をスタートさせます。高等学校が国指定天然記念物の保護増殖事業に取り組むのは全国初です。自然科学部では、野外での絶滅を回避するために、台風の多い7月から10月にネコギ

ギ数個体を部室で一時的に飼育。オスとメスをペアリングし繁殖させ、孵化して成長した稚魚を適した区間へ放流します。飼育初年度に誕生した稚魚は9匹でしたが、検証や工夫によって、2021(令和3)年には61匹の稚魚を得ることに成功しています。絶滅を避けるために一部の稚魚は放流せずに3年間飼育を継続し、生態解明に活かされています。

自然科学部の活動は社会的にも大きく評価され、これまで多くの賞を受賞。近年では日本自然保護大賞2020 子ども・学生部門で大賞を受賞しました。さらにネコギギや鈴鹿川について多くの人に知ってもらうために、全国や県内の科学コンクール、研究発表会や地域での普及啓発活動も積極的に行っています。今では鈴鹿高等学校の生徒はもちろん、地域の方々にも着実に認知されてきました。自然科学部の活動は、ネコギギが棲める自然環境の保全と川に棲む生物の生息地を守る意識を高め、人間にとって豊かな自然を守ることにもつながっています。

美しい水を守る
フジクリーン工業株式会社

本社 名古屋千種区今池四丁目1番4号 〒464-0850 TEL(052)733-0325 <https://www.fujiclean.co.jp>

| | | | |
|---------------------|----------------------|----------------------|----------------------|
| 札幌支店 (011)738-5075 | 茨城営業所 (029)839-2271 | 岐阜営業所 (058)274-1011 | 佐賀営業所 (0952)31-9151 |
| 東北支店 (022)212-3339 | 宇都宮営業所 (028)625-4650 | 静岡営業所 (054)286-4145 | 熊本営業所 (096)388-3571 |
| 東京支店 (03)3288-4511 | 群馬営業所 (027)327-5611 | 四日市営業所 (059)350-0788 | 大分営業所 (097)558-5135 |
| 名古屋支店 (052)733-0250 | 埼玉営業所 (048)660-5050 | 和歌山営業所 (073)422-3634 | 宮崎営業所 (0985)32-3064 |
| 大阪支店 (06)6396-6166 | 千葉営業所 (043)206-5171 | 広島営業所 (082)843-3315 | 鹿児島営業所 (099)257-3501 |
| 福岡支店 (092)441-0222 | 新潟営業所 (025)271-8668 | 高松営業所 (087)869-8680 | 沖縄営業所 (098)862-9533 |
| 盛岡営業所 (019)604-2527 | 山梨営業所 (055)275-9300 | 松山営業所 (089)967-6123 | |
| 郡山営業所 (024)937-0800 | 松本営業所 (0263)27-2080 | 高知営業所 (088)803-1520 | |



発行 2022年1月1日
フジクリーン工業株式会社「水の話」編集室